

YouTube「MRO 北陸放送公式チャンネル」 被災して地上波を見られない人のために 積極的に映像を出し続けた

編成業務局 メディア推進室
松井 拓人さん



報道制作局 報道部
園 浩敬さん



放送に加えたもう一つの “武器”として徐々に浸透

——能登半島地震の前と後では、YouTubeの活用方法に変化は？
園■地震のときは中継局が被災して停波した状況が続いていたのですが、それを補完するメディアとしてYouTubeは報道の中でもかなり注目されるようになりました。私は報道記者として現場で取材をしていたのですが、何とかして24時間に近い形で情報を出さないといけないと感じていました。それまでは面倒臭いと言っていた記者も、抵抗なく映像をYouTubeに流すようになりました。特に若い記者が、積極的に映像を出し続けていました。

YouTubeの活用は弊社の中でもずっと言われていたのですが、震災後は放送に加えたもう一つの“武器”として徐々に浸透してきているというのが、現場の感覚としてあります。松井■今回の地震では報道部は現場の仕事で手一杯で、また地上波が見られない方が多くいるなかで、どうやって県民や県外の方に情報を発信し、私の所属するデジタル担当部署がどういうふうに援護射撃できるかが大きな課題になりました。災害訓練ではないですが、報道以外の部署がしっかりと報道をサポートできる体制、それがYouTubeであったりするのですが、この震災でかなり臨機応変にその知見を学べたと思います。——震災報道では系列局との連携も重要だと思いますが。

松井■震災後は多くの系列局の記者が応援に来られました。その方々が撮られたいろいろな素材やインタビ

ューなどを放送やYouTubeで届けるためにはしっかりと連携していくことが、被災局には求められました。近い将来起こる可能性がある南海トラフ地震などの大災害に備えて、該当エリアの放送局にもしっかりとこの経験を引き継ぎたいと思っています。

一方で、災害報道は放送ではある程度ルーティンとして慣れているのですが、デジタルになった瞬間に何かから手をつけたらいいのかわからない状態も今回は垣間見られました。YouTubeを扱うことのレベル差があるように感じたので、そこは系列局として底上げしていくことが今後の課題だと思っています。

競合ではなく、いかに 共生していくかが求められる

——今後のYouTubeの活用方法は？
園■石川県知事会見は毎回ライブ配信していたのですが、時間が経つと同時接続数（同接）が少なくなり、一般の方の興味は薄くなっていると感じて、止めていた時期があったのです。しかし、止めた途端に「知事配信を何で止めたのか」という問い合わせが視聴者から多く来たんです。ライブ配信をリアルタイムで視聴している数が少ないから配信を止める、PV（ページビュー）が少ないからこのコンテンツはいらないなど安易に考えてはいけなさと、そのときは痛感しました。それが、動画配信を今後どうしようかと考える指針になっていることには間違いありません。

今後は地上波では枠が取れない素材をYouTubeで流すことをやっていきたいです。その素材が放送では3

分だったものを、5分くらいかけて流すようなこともやってみたいです。松井■6月上旬に「金沢百万石まつり」という大きなお祭りがあり、地上波の生中継が終わったあとの別パートをYouTubeで配信する取り組みをしたところ、県知事選挙とほとんど同じぐらいの同接数があって、県民からかなり注目されました。YouTubeは地上波の補完という意味もありますが、地上波以外で何かできること、面白いことをつかんでいくことは、今後もどんどんやっていきたいと思っています。

また、地上波は若者離れが叫ばれており、若者はYouTubeやSNSを活用しています。これらのメディアと競合するのではなく、いかに共生していくかを、今後、地上波の局として考えていく必要があると思います。

オススメコンテンツ



「生きられなかった時間を私が一生懸命生きて…」能登半島地震で妻と子ども3人失った男性 日が経つごとに増す悲しみ【石川・能登半島地震】

地震の影響で起きた土砂崩れに住宅は飲み込まれ、妻と子ども3人を亡くされた珠洲警察署の大間圭介さん。被災者の現実が映像から伝わり、7月現在、39万回超の再生数を記録。



from
YouTube

国内における18歳以上のYouTube月間ユーザー数は7,120万人を超え、大規模災害情報を伝える場としての利用価値も高まっています。9月1日の防災の日に合わせて、いざという時の備えとして、YouTubeでの配信方法を改めて見直してみたい方が多いでしょう。